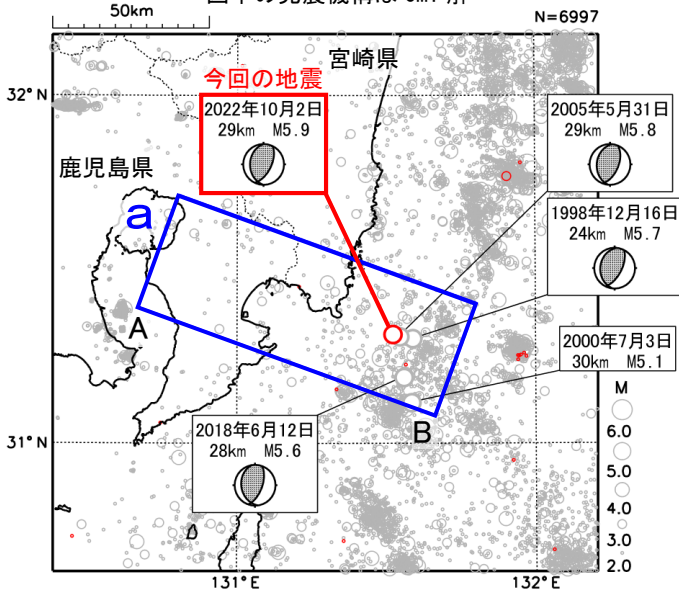
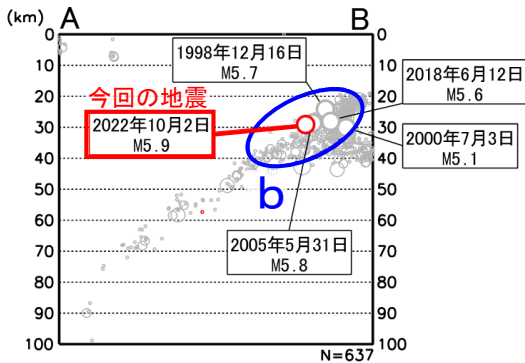


10月2日 大隅半島東方沖の地震

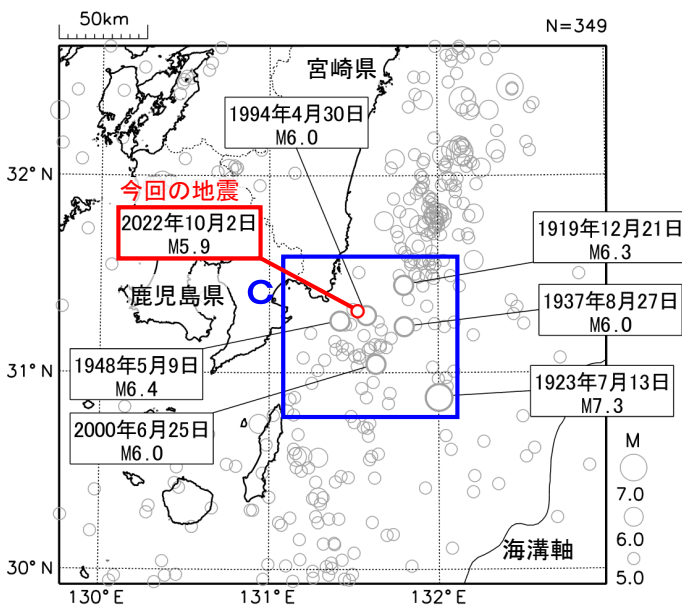
震央分布図
(1997年10月1日～2022年10月31日
深さ0～100km、M≥2.0)
2022年10月の地震を赤色○で表示
図中の発震機構はCMT解



領域 a 内の断面図 (A-B 投影)



震央分布図
(1919年1月1日～2022年10月31日、
深さ0～100km、M≥5.0)
今回の地震と M6.0 以上の地震に吹き出しを付加

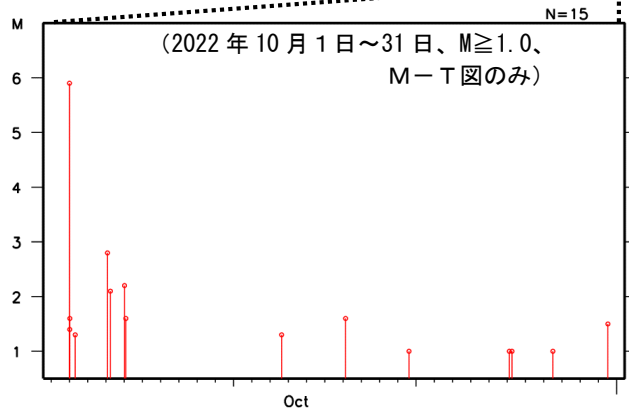
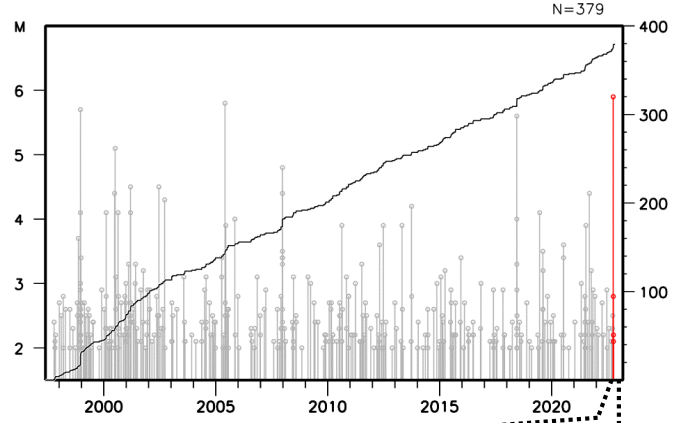


2022年10月2日00時02分に大隅半島東方沖の深さ29kmでM5.9の地震(最大震度5弱)が発生した。この地震により長周期地震動階級2を観測した。この地震は、発震機構(CMT解)が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)ではM5.0以上の地震が今回の地震を含め5回発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)ではM6.0以上の地震が6回発生している。このうち、1923年7月13日に発生したM7.3の地震では、鹿兒島県の中種子村(現在の中種子町)で住家小破27棟などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域 b 内の M-T 図及び回数積算図



領域 c 内の M-T 図

